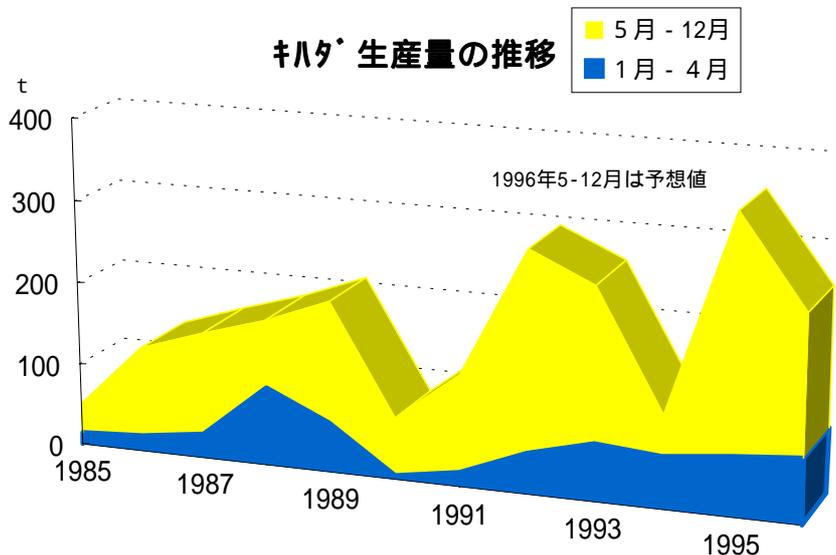


沖縄本島南方海域のパヤオに出漁する糸満漁協、港川漁協、知念漁協、沖縄市漁協のパヤオ漁の漁獲量を整理しました。その結果、パヤオ漁の主要な対象魚であるキハダ(10kg以上)、シビ(10kg未満)、シイラの1996年4月までの漁獲は好調で、今年は昨年に引き続き好漁が予想されます。

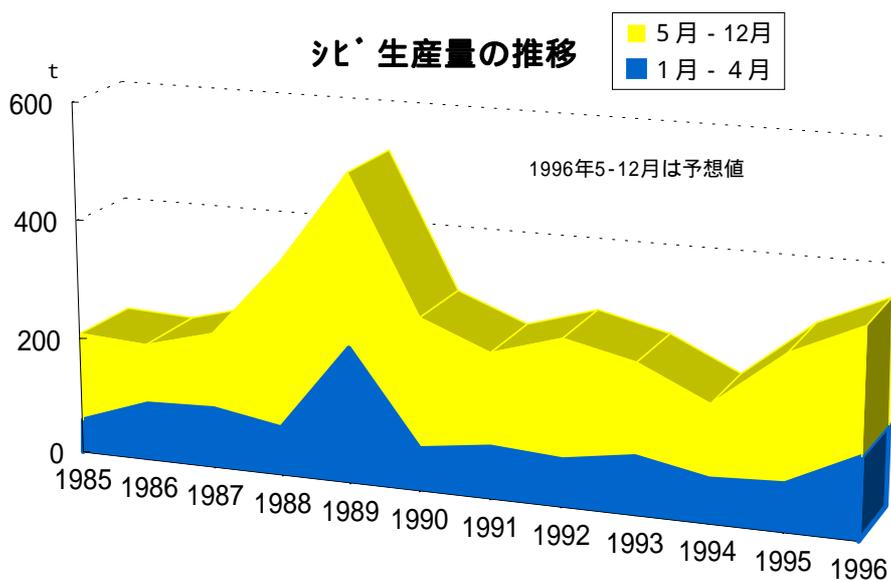
### キハダ生産量の推移



沖縄本島南部海域のキハダの漁獲は、春と秋の年2回ピークがあり、年間の漁獲量は大きく変動しています。昨年は過去最高を記録しました。

今年も4月までは昨年と同程度です。5月以降の生産量が変動するため、予想は難しいのですが、今年も好漁が予想されます。

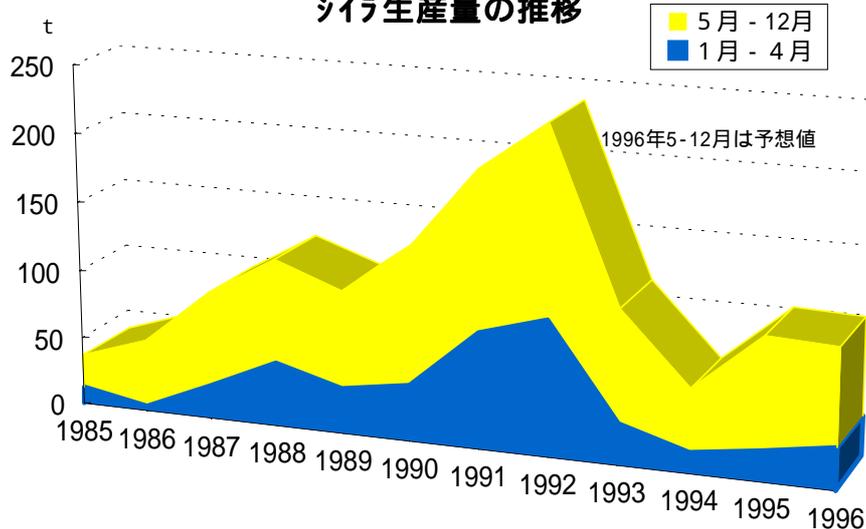
### シビ生産量の推移



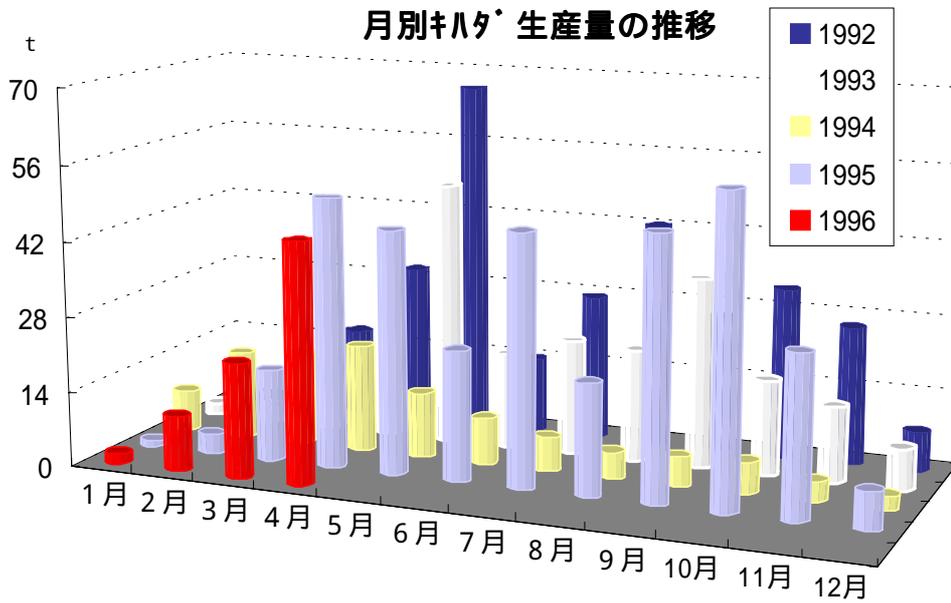
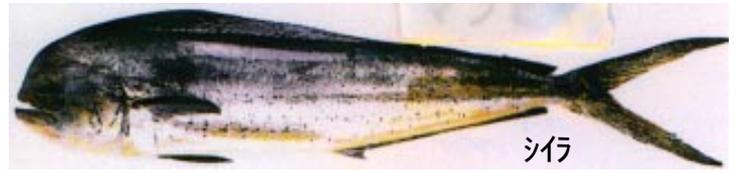
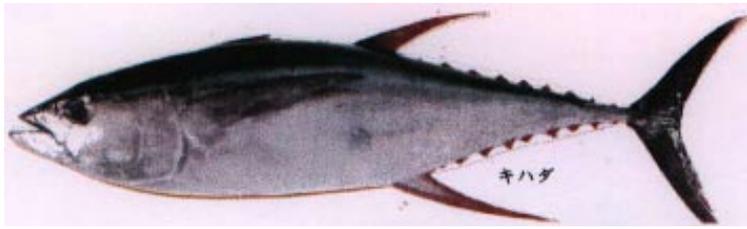
シビの漁獲量は、1989年の豊漁を除けば比較的安定しています。

昨年は好漁でしたが、今年4月までは昨年よりも良く、今後も好漁が予想されます。

### シイラ生産量の推移

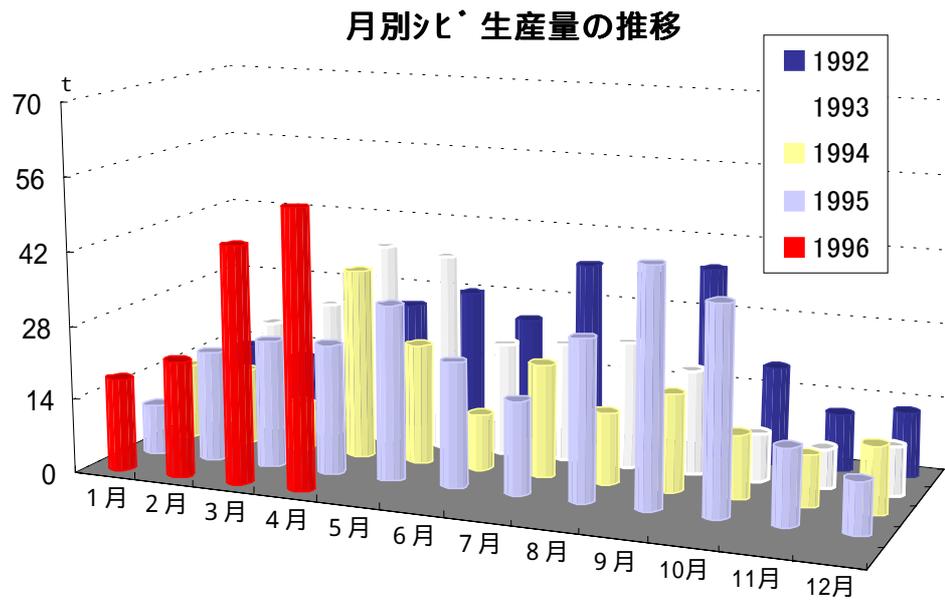


シイラの漁獲量は、1992年まで急激に増えてきましたが、その後急に減少しました。昨年は平年並みに回復し、今年も同程度の漁獲が予想されます。



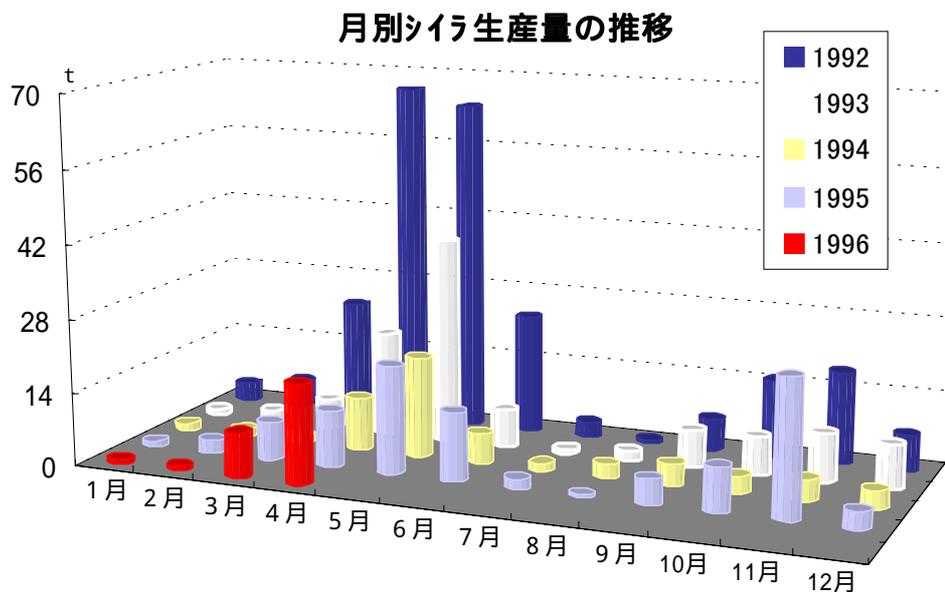
キハダの漁獲量は、4、5月と8、9月がピークになることが多いようです。 昨年は春漁、秋漁ともに好調で、例年あまり釣れなくなる7月にもよく釣れました。

今年も4月までは、昨年と同程度の漁獲です。



シビの漁獲量は月による差が少なく、周年漁獲されていますが、3月～10月に多いようです。

今年は、4月までは昨年より漁獲が多くなっています。



シイラの漁獲量は、通常3月～6月と10月～11月の2回ピークがあるようです。今年の春漁は、4月までは昨年より好調です。